徳島大学で学ぶ皆様へ

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
顎顔面顎部機能再建学系顎顔面機能修復学
顎顔面矯正学分野
森山 啓司 もりやま けいじ

Keiji Moriyama

皆様、こんにちは。私は、平成10年1月から平成19年の3月までの9年余の間、徳島大学歯学部歯科矯正学講座(現在の大学院ヘルスバイオサイエンス研究部口腔顎顔面矯正学分野)の教授として在籍いたしました。赴任時は明石海峡大橋がまだ未完成で、神戸～淡路間を懐かしのフェリーで渡り徳島に到着しました。いよいよ始まる新しい生活に対する期待と不安の入り交じった複雑な心境は、今でも懐かしく思い出されます。その当時は、徳島大学にもまだ良い意味での国立大学の牧歌的雰囲気が多く残されていて、のびのびとした環境で仕事をスタートすることができました。しかしそれも束の間、しばらくすると医学部附属病院と歯学部附属病院の統合(平成15年10月)、国立大学法人化(平成16年4月)、大学院重点化(平成18年4月)といった組織をあげての大改革が矢継ぎ早に始まり、一転して激動の時代へと突入しました。とても刺激に富んだ多忙な毎日でしたが、素晴らしい教職員や学生に囲まれながら過ごした充実した日々は、私にとりまして何にも代え難い貴重な経験となりました。

さて、現在私は、東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科顎顔面矯正学分野で歯科矯正学に関連した教育・臨床・研究に従事しています。東京という立地条件も手伝ってか、歯学部附属病院の1日あたりの平均外来患者数は約1900名を数え、年々増加の一途をたどっています。近年は、大学病院を受診する患者さんの治療の難易度はますます高くなる一方で、単一の診療科で対応できる症例は減少し、むしろ多数の診療科や医療機関で連携して治療にあたる症例が増加しています。我が国の歯科医師数は飽和状態といわれることもありますが、先端歯科医療の開発はもちろん、高齢者、全身疾患や精神面でリスクを抱える患者さん、治療結果に満足せずさまざまな医療機関を彷徨う患者さんなど、現行の医療システムでは十分対応しきれていないケースもあり、日本の歯科医療が取組むべき課題はまだ多く残されているように思います。また、ひとたび世界に目を向ければ、教育、臨床、研究のリソースの不足から人的支援を求める国々もたくさんあります。国土面積が限られた日本では、ともすれば皆同じ方向を向いて眼前のパイを奪い合いがちですが、これから歯学を学ぼうとする皆様には、あまり周囲に惑わされず自分の個性を大切にしながら、生涯をかけて進むべき道を見いだしていただきたいと思います。長期的な広い視野に立ち、夢を大きく持って歩んでいけば、必ずや光に満ちた新しい広大な地平が拓けていくものと思います。もちろん、これは歯学に限らず他の分野においても共通して言えることだと思います。

プロフィール

昭和61年　東京医科歯科大学歯学部卒業
平成2年　東京医科歯科大学大学院歯学研究科修了
平成4年　米国テキサス大学サンアントニオ校医学部内科内分泌代謝学部門博士研究員
平成6年　東京医科歯科大学歯学部助手(歯科矯正学第二講座)
平成9年　東京医科歯科大学歯学部講師　(歯科矯正学第二講座)
平成10年　徳島大学歯学部教授(歯科矯正学講座)
平成16年　徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部教授(口腔顎顔面矯正学分野：改組による)
平成19年　東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科教授
(顎顔面矯正学分野)

学んだことを科学捜査に活かす

滋賀県警察本部刑事部科学捜査研究所
化学係 研究員
谷口 真司 たにぐち まさし

滋賀県警察マスコット
「けいたくん」

現在の職業について

私は現在、通称「科捜研」と呼ばれる県警察本部の刑事部に所属しています。科捜研では、事件や事故現場の様々な資料を分析して、犯行手段や事故原因の究明、犯人像の推定を行い、日々事件の解決に臨んでいます。

科捜研は法医、化学、物理、心理文書の係に分かれており、私は化学係に属しています。化学係の主な業務は、麻薬、覚せい剤などの乱用薬物、各種の薬毒物、繊維や塗膜といった工業製品、油類などについて分析を行うことです。警察組織なので、緊急事案があれば夜中でも職場に出ることがあり、土日においても常に呼び出しに対応できる待機当番員を持ち回りで行っています。

在学中の経験が活かされていると思うこと

幸運なことに、学生時代に得た薬学の知識と研究室で培った有機化学及び機器分析の技術は、科捜研の業務にそのまま活かせる部分が多くあります。

また日々の検査業務の他、新たな科学捜査技術の研究開発にも取り組んでおり、研究において様々な疑問や問題にぶつかった時には母校である徳島大学の研究室に戻り、お世話になった先生方にご助言を頂くこともあります。

在学中に経験しておけばよかったと思うこと

せっかく徳島にいたのに、阿波踊りに関してはほとんど「見る阿呆」で終わってしまいましたので、やはり阿波踊りをしっかり踊っておくべきだったと現在若干の後悔をしています。また、比較的自分の時間が自由に取れる在学中にボランティア活動や海外への旅行などをして、より広い視野をもつ努力をすべきであったと考えます。

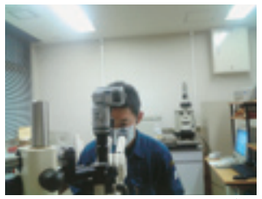
就職活動の体験談

諸事情により、私の就職活動は同世代の友人と比べて約1年遅れで始まりました。1年も遅れると企業の募集はほとんど終了しており、この遅れは就職先の選択肢が狭められる結果となりました。残り少ない募集の機会を少しでもすくい取ろうとインターネット上での募集を探したり、就職支援室に足を運んだり、先輩にお話しを伺ったり、募集のない企業にも電話で問い合わせるなど、できる限り情報を集める努力をしました。現在の職場も募集時期が不定であるため、常に募集があるかどうかチェックする必要がありました。

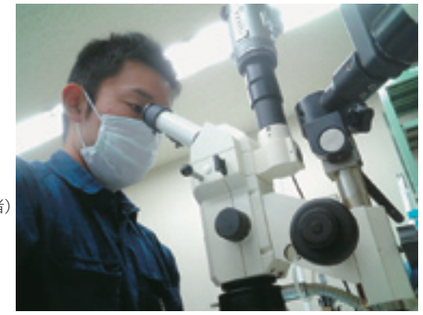
進路についてのアドバイス

まずは、卒業後大学院に進学するか、就職するかについて多少なりとも悩むと思います。仮にどちらを選択するか決まっていても、両方の可能性をあえて探りましょう。就職活動を行い、かつ大学院の研究室も見て回り、試験対策の勉強をすることをお勧めします。就職活動、大学院進学の勉強をするなかで、自分の進路についての考えが洗練され、より良い進路を選択することができると思います。

滋賀県警察本部



検査風景（執筆者）



プロフィール

1981年10月　兵庫県淡路市生まれ
1994年　3月　淡路市立山田小学校卒業
1997年　3月　淡路市立一宮中学校卒業
2000年　3月　兵庫県立津名高等学校卒業
2004年　3月　徳島大学薬学部卒業
2006年　3月　徳島大学大学院薬科学教育部創薬科学専攻修了
2006年　4月　滋賀県警察研究員拝命